フィジカルアセスメントⅠ　問診・バイタルサイン測定の演習(1)(学生用)

担当：小林(裕)

1. 科目の目的　人間の日常生活行動に関わる解剖学・生理学的なメカニズムを理解した上で、その観察技術の基礎的知識と技術(安心できる測定技術)を習得する
2. 単元の目標　人体の構造や機能に基づいたフィジカルアセスメントの技法及びその重要性を理解する
   バイタルサイン測定の技術を習得できる
3. 本時の目標
   1)　見当識の確認を行い、患者の意識レベルを正しく判断できる
   2)　電子体温計による腋窩体温測定が正確にできる
   3)　問診の技法を用いて、主訴に関連する生活背景や随伴症状の情報を得ることができる
   4)　収集した情報(体温・意識・症状)から、患者に何が起きているか考えることができる(アセスメント)
4. 実施日時　2026 年 11 月 3 日(月) 9:35～12:00
5. 演習場所　実習室 1
6. 服装　白衣、白い靴下、演習用シューズ、インナーにタンクトップやキャミソールを着用する、マスク着用
   ※演習では肌を露出(胸部・腋窩)します。相手に見えても問題ないインナーを着用すること
7. 必要物品　これまでの授業資料、iPad、Clinical Study5 月臨時増刊号　解剖生理書き込みドリル(学習課題①)
   筆記用具、体温計、アルコール綿、バスタオル、クリップボード
   小さめのハンドタオル(自分の脇の汗を拭うための物)、手指消毒(オーガナイザーに入れて)
   実習で使用しているサイズのメモ帳(ポケットにいれておく)
8. 身だしなみは実習に準じて整える。実習要項、“Ⅷ実習上の心構えと注意事項”、3 の8)～12)までよく読む。入室後でも、教員が不備ありと判断した場合は、準備を整えてから入室する。その場合の時間は欠席時間とする。

9. 演習前の学習　必ず事前に学習をして演習に臨むこと
   ①　前回の授業の内容をよく復習する。
   ②　学習課題①として、Clinical Study5 月臨時増刊号　解剖生理書き込みドリルの第 7 章(P64～67)を復習問題まで取り組み、内容を理解しておく。
      ※　体温のメカニズムは、形態機能学で学習した既習内容であるため、授業は理解していることを前提に進めます。理解していないと判断(アセスメント)ができませんので、しっかり復習してください。
   ③　VISUALEARN の以下の内容を視聴し予習をする。※授業前に視聴し学習したか視聴ログを確認します!
   - 看護教育(基礎看護学)→“わかる!できる!バイタルサイン測定”→Vol.1　基本的な測定の流れ・体温・意識、にあるインデックス 1～10まで見る。

   ④　医学書院、根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術のテキストを活用し、体温測定の手順やポイントを理解しておく。

10. 演習スケジュール　※時間配分は変更する場合がある

時間	内容
9:35～10:20	【講義】体温測定と意識レベルについて
10:20～10:40	【演習 1】臥床患者の体温測定
10:45～12:00	【演習 2】ミステリー問診

11. 演習グループ

1ﾍﾞｯﾄﾞ	１０	１１	１４			6ﾍﾞｯﾄﾞ	２１	２２	２３	２４
2ﾍﾞｯﾄﾞ	1	2	3	4	5	7ﾍﾞｯﾄﾞ	２５	２６	２７	２８
3ﾍﾞｯﾄﾞ	6	7	8	9		8ﾍﾞｯﾄﾞ	２９	３０	３１	３２
4ﾍﾞｯﾄﾞ	１２	１３	１５	１６		9ﾍﾞｯﾄﾞ	３３	３４	３５	３６
5ﾍﾞｯﾄﾞ	１７	１８	１９	２０		10ﾍﾞｯﾄﾞ	３７	３８	３９	４０

12. 演習方法

1) 演習1、臥床患者への体温の測定

※ 患者への説明と同意、環境整備と点検は済んでいるとし、実践から開始する。

○ 1G あたり 20 分の中で、メンバー全員が体温測定と記録を行う。

○ 観察者になったら、正しい方法で測定することができているか確認しながら助言する。

○ 患者役はパジャマを着る。時間短縮のため、一人で何回も患者役を行ってもよい。

2) 演習 2、問診の技術、意識レベルの観察、体温測定の技術を駆使し、患者に何が起きているか考える。

※ 詳細は当日伝えます

13. 留意点

1) 必ず事前に学習をした上で臨むこと。

2) 実際の患者に実施すると思って真剣に取り組む。

3) 積極的に意見を言い、演習に参加すること。